

# 国 労 ち ば

国鉄労働組合  
千葉地方本部  
発責 加藤 晃一  
編集 高橋 弘幸  
【電話】  
JR 2930 FAX 2934  
NTT 043(238)5963  
FAX 043(238)5967

大変な職場を変える力は  
働く者の団結だ  
国労と一緒に改善を

# 再び戦争をさせないために

## 再び戦争をさせない、10000人委員会主催

## 結成10周年記念講演

9月28日千葉県教育会館において「再び戦争をさせない千葉県10000人委員会」の賛同団体・地域10000人委員会合同代表者会議、終了後に結成10周年記念講演が開催された。

代表者会議では主催者から「立憲・民主主義を守る、反戦・反核という立場で10年運動を続けることができた。戦争を押し止め、全国各地の10000人委員会の果たす役



割は極めて重大となっている」とし、「今回の自民党の総裁選で石破氏が総裁となったが、彼は戦争オタクであり、日本の軍事、改憲策動がさらに活発になる恐れがある。総選挙も予定されている。平和が続く未来に向け立憲主義、人権と平和を追求する運動を更に進めましょう」とあいさつ。

### 講演内容

当面する行動提起の後、オスプレイが配備されている木更津の仲間から暫定配備期間が5年(2025年7月まで)であり、木更津市としても順守を求めるとしているが、これまでの住民に対する姿勢から「暫定配備期間を守らせる木更津駅前集会」

なども開催。マスコミの関心も高く、多くの新聞社から報道もされた。「住民の会」として配備期間を守らせる立場で木更津市との意見交換会も予定されていると現状報告があった。



結成10周年記念講演として平和フォーラム顧問・前共同代表である藤本泰成さんから「平和を巡る情勢と私たちの課題」をテーマに話がされた。戦争を体験していない



新しい日本のリーダーとなった石破首相は、就任わずか一か月後の10月27日を投票日とする衆議院解散を決定した。就任のお祝いムードがあるうちにとやう目論見だったのだろう。そもそも政治と金の問題を説明することなく「顔」をすり換えてやり過ごすための自民党総裁選だった。「裏金議員の処遇も国民の理解を得られるようなものではなく、非公認議員にも活動費が配られるなど一貫性が無く

### 国民の審判下る

憲法改正である。自衛隊を憲法に明記してゆくゆくは兵士を供給できるように「徴兵制」の導入も考えられている。国会では改憲発議に必要な3分の2は超えている。如何に世論調査で改憲賛成が圧倒的にならないようにするか、運動が重要になっている。

エルダー社員として働いてきたが定年退職し、関連会社でパート社員として働くことになったが時給は最低賃金ぎりぎりの1,080円。パートとして働いている妻より200円以上時給が安く半ば同情されている。▼若手社員の離職が相次ぎ、エルダー出向の終了を機に退職する人も多く、要員不足が深刻になっている。要員不足解決には将来を担う新入社員を育てることが必要だ。しかしながら賃金や福利厚生を含め「働く魅力のない会社」のイメージを払拭させなければならぬ。▼石破首相は「物価上昇を見合う賃金の上昇を」と口にするが、何を今更。企業に都合の良い派遣労働者を採用し易くした結果、将来の不安定さの危惧から婚姻率は低下し、少子化を招いた。賃金の安い日本を脱出し、海外で稼ぐ若者たちも増えている。口先ではなく日本のことを真剣に考える政治家が必要だ。(弘)

# 団結まつり開催

10月13日、京成電鉄労働会館において国鉄闘争の経験と教訓を活かす千葉県共闘会議主催の『2024千葉県団結まつり』が開催された。



まつりは例年同様、3部構成で第1部はユニオン市原の鈴木さんの司会で始まり、主催者を代表して坂本千葉県共闘会議議長（高教組）があいさつ。来賓では新社会党千葉県本部・日本共産党千葉県委員会からあいさつを受け、立憲民主党からのメッセージが披露された。

共闘・争議団報告としてJAL被解雇者労働組合より闘争報告と支援の訴えが行われた。続いて国労千葉地本・加藤委員

長より「地域公共交通を守る運動について」の報告と行動要請を行った。（別掲）

昨年同様、労組・団体が物販を行い、国労もアルコールやお茶などを販売した。

第2部の余興では朝鮮初中級学校の生徒による太鼓など道具は使わず身体全体で表現する踊りが披露された。

続いてのマジックショーは初出演となるセイドさんの「変面」から始まった。目の前で顔を隠した扇子が閉じると一瞬にして顔を覆ったマスクが変わり、その都度大きな歓



声が上がった。

第3部はお楽しみみの大抽選会。抽選番号が読み上げられるたびにあちこちのテーブルからため息と歓声が上がった。

国労千葉地本の加藤委員長がお礼と閉会のあい



さつをし、『団結カンパロー』を参加者全員で三唱し、盛況のなか閉会となった。

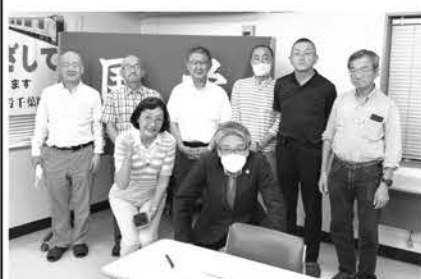
今年はお天に恵まれ、政党をはじめ、労組・団体を含め、75人が参加した。

## 全労協・JHU 千葉地本を訪問

10月15日、国労OBでもある全労協東京中部ブロックの青柳さんとJAL被解雇者労働組合・鈴木副委員長が千葉地本にみえられ、表敬訪問を受けた。

JALは2010年1月、政府の方針で破綻の再建が進められた。営業利益を上げることができていたにもかかわらず、大晦日にパイロットと客室乗務員合わせて165名を解雇した。

解雇されたベテラン乗務員は安全問題や職場の



改善に取り組んできた人たちだ。利益を優先するため、モノ言う労働者の排除し労働組合の弱体化させる施策は安全に逆行する。

12月20日、JAL本社包囲行動が行われる。多くの働く仲間の参加をお願いしたい。

# 地域公共交通を守る全国統一行動 団結まつりで国労の取り組みを訴える



9月19日、新幹線が走行中に突然連結部分が外れるという、大事故が発生した。結部分が外れた場合、後方車両ほど強いブレーキがかかる仕組みとなっているというが、作動しなかった場合、前

方の編成車両に激突し脱線するなど大惨事に繋がることが想像に難しくない。その他にも、架線設備の破断、保守用車両の脱線など、トラブルが多発している。また、車軸取り付けデータの改ざん・隠ぺい問題が発覚し、貨物列車が一時的とはいえ全国的に運行を取りやめたことから物流にも大きな影響が出た。

東日本大震災の際、第3セクター鉄道の線路まで使用し貨物列車が燃料輸送をしたが、真冬の被災地の皆さんにとっては、

価値ある輸送であったことは言うまでもなく、鉄道は物流と地域振興を支えてきたといっても過言ではない。

今の地方ローカル線廃線の流れは地域間の分断を招きかねないし、人口減少に至り、やがて転換された交通網も崩壊すると考える。昨年、「JR久留里線沿線地域交通検討会議」が発足し、これまで3回の説明会が開催されている。JR千葉支社は沿線住民の移動実態に関するアンケート調査を実施し、住民の大半は

公共交通を利用していないことを確認したとしている。赤字だからではなく、利用者の少ない線区は、鉄道の大量輸送という特性を活かせていないことから利用者や自治体との議論が必要だ」としている。話し合いが始まった時点で、鉄道の再生の可能性は低く、こうした醸成が作られてしまいうことに大きな危惧の念を抱く。

国労千葉地方本部はコロナ禍で行うことができなかった「駅頭宣伝行動」を2月に再開した。ダイヤ改正をはじめとしたJR会社の施策の問題点や地方ローカル線の問題などを、多くの利用者に向けてもらうためのアピールができたと考えている。

これからも広範な利用者に訴えながら、安全・安定輸送の確保とサービス低下を許さない闘いを前進させていかなければならない。また、公共交通としての「使命」を維持し続けるためには、国労だけの闘いでは充分ではないことから、共闘の仲間の皆さんの理解を求め、必要と考える。

今後も広範な利用者・住民の方々に呼びかけを行い、より理解を深めていただけるよう努める。

国労は輸送業務に携わる労働組合として、多くの利用者が安心して利用できる地域公共交通を再構築させるため、利用者はじめ地域住民、議会・議員の皆さん、自治体等への要請など、全国的に運動を展開していく。ぜひ共闘の皆さんにもこの運動にご理解いただき、今後ともご支援とご協力を要請し国労からの訴えとする。